

輝北エリア

△
11

仁王像



今から約600年前の室町時代、敷根氏の菩提寺である法城山両足寺の山門に据えられていた。しかし、廃仏毀釈を免れるために一度地中に埋めて隠し、その後現在の場所に安置された。風邪を治す仁王像として親しまれており、治ると火吹き竹を供える風習があった。

☆
71

加瀬田ヶ城



築城については時代・人物ともに不明であるが、肝付氏の武将が築城したといわれる。北側はシラスの絶壁、東南側は急斜面という自然の要塞で、両側には堀がつくられているため、攻めにくく、守りやすい城であった。

●
8

祓川の大園橋



明治37年(1904年)5月に完成した復式アーチ型の石橋(めがね橋)。全長30m、幅3.1m、高さ約5m。鹿屋福山線の一部として昭和35年(1960年)まで現役で使われていた。耐久性・美しさともに当時の石造技術としては抜群で、大隅唯一のめがね橋として貴重。

★
93

クス



田崎神社の愛称で親しまれている七狩長田貴神社の境内で、大きく枝葉を広げる樹齢約800年の大木である。数百年前からご神木としてあがめられており、生育状況も良好。根回り約10.8m、高さは約25mである。

△
20

中福良の田の神



頭にはポリウムのあるシキをかぶり、右手にスリコギ、左手にシャモジを持ち両肩に乗せている。像高約57cmとやや小柄の田の神像だが、眼の彫りが大変深く表情豊かである。

★
95

諏訪両神社の古木 (イチョウ・イヌマキ)



イチョウは周囲9m、高さ19.8m。イヌマキは周囲3.75m、高さ22m。いずれも樹齢は400年以上と思われる。日清日露戦争以前から、出征の際に小さな鉄の鎌をお守りにし、無事帰還したら感謝をこめてイヌマキの幹に鎌を打ち込む風習があった。

串良エリア

☆
91

岡崎20号古墳



岡崎古墳群の中心エリアにあり、全長約39mと本古墳群内最大の前方後円墳である。前方部と後円部が分断されているため2つの円墳だと考えられていたが、発掘調査の結果前方後円墳だと分かった。前方部と後円部どちらも埋葬施設の痕跡がみられる。

☆
104

海軍航空隊串良基地跡の地下壕電信司令室



串良基地から飛び立った特攻隊員との連絡を行い、最後の通信を受け取っていた地下室。深さ約7m、全長約51m。通信室を主室とし、通路と小部屋などで構成される。出入口が2か所あり、東側の出入口には厚さ約1mの爆風避け防御壁が残っている。

★
102

大賀ハス



千葉県の発掘調査で出土した種から発芽した、2000年以上前(弥生時代)の古代ハス。元串良中学校教諭と元市文化財保護審議委員の指導のもと株分けが始まり、今日まで毎年株分けを行うことで原種の状態を保っている。開花の見ごろは7～8月。

▲
105

川原園井堰の柴かけ



山からマテバシイなどを切り出し、竹で束ねたものを串良川にかけて堰を作り、田に用水を供給する。約350年前の江戸時代から続く技法で、毎年3月中旬に柴束のかけかえ作業が行われる。日本でここだけにしか残っていない、きわめて貴重な技術である。

鹿屋エリア

●
8

祓川の大園橋



明治37年(1904年)5月に完成した復式アーチ型の石橋(めがね橋)。全長30m、幅3.1m、高さ約5m。鹿屋福山線の一部として昭和35年(1960年)まで現役で使われていた。耐久性・美しさともに当時の石造技術としては抜群で、大隅唯一のめがね橋として貴重。

★
93

クス



田崎神社の愛称で親しまれている七狩長田貴神社の境内で、大きく枝葉を広げる樹齢約800年の大木である。数百年前からご神木としてあがめられており、生育状況も良好。根回り約10.8m、高さは約25mである。

▲
59

高須町の刀舞



旧暦6月15日(毎年8月第1日曜日)、八坂神社(波之上神社)の祇園祭で奉納される神楽舞。刀・なぎなた・弓・鬼神・田の神の5つの舞を同時に舞い、奉納後はみこしと共に町内を巡行する。元は波之上神社の大晦日神事だったが、明治末から今の形になった。

☆
103

海軍航空隊笠野原基地跡の川東掩体壕

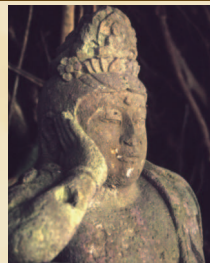


戦闘機や物資などを爆撃から守るために建設された、コンクリート製のかまぼこ型の施設。内部の最も広い場所が横幅約16m、コンクリートの厚みは約50cm。当時の笠野原基地には約200基あったとされるが、現在では唯一この1基だけが現存する。

吾平エリア

△
24

飴屋敷の観音



蓮台の上に片ひざを立てて頬づえをついた、均整の取れた美しい如意輪観音像。凝灰岩製で、台座まで含めた高さは約174cmと立派である。台座部分に「享保六」(1721年)などの文字が刻まれている。

△
43

上名芒野の田の神など



2体の田の神と水神祠などが祀られている。向かって右側の田の神像は、右手のスリコギを持ち上げ、左手のシャモジを横向きに持っている。左側の田の神像は、右手にスリコギ、左手にシャモジを持ち、頭上のシキには小仏が彫りこまれている。

△
31

車田の田の神



山水と一緒に彫られためずらしいタイプの田の神像で、田の神の高さ93.5cm、山水の高さ52cm。大きなシキを頭にかぶり、袖の長い上衣と袴を着ている。左手にシャモジ、右手にスリコギを持つ。頭上と胸元、山水の面に、磨崖仏のように小仏が彫られている。

☆
86

鶴戸神社境内の野町観音



元は市街地の十字路交差点に祀られていたが、鶴戸神社境内に移設された。野町はこの観音像を中心に集落を形成しており、町民は朝早くから参拝していたといわれている。総高約123cmで、優美で柔和な容姿の菩薩像である。